

## エジプトの旅

＊

日下部芳志●日下部皮膚科医院（小田原市）

何年か前「シェルタリング・スカイ」と言う映画を観て以来、一度は砂漠の夜に輝く月と星をじっくり眺めてみたいものだと願っていた。そんな折(2010年3月)、エジプトはカイロの学会に出掛ける事になった。内心すごく期待していたのだが、やはりサハラ砂漠の中には行かないらしい。しかし、エジプトだってサハラ砂漠の端に懸るはずと、勝手に期待を膨らませて、「アッサラーム・アライクム……」等とアラビア語をやり始めたが、すぐ不可能だと悟り止めてしまった。

出発の日は瞬く間に来て、3月の連休を挟んで出かけた。アラビア語が出来ないので、学会関係にお任せした。エミレーツ航空でドバイ経由である。「ドバイでヘリコプターに乗って『楽しんでますかー』って写真撮ってもらおうかな」と冗談を言ったら、「そ

んな事をしたらしばらく口をきいてあげない！」と娘に釘を刺された。

ともあれ、ルンルンと出掛ける。経由地のドバイに早朝到着。乗継は午後なので市内へ出かけた。今話題のランドマークタワー、バージュ・ハリファ（地上828m、160階）を見に行った。市内に入るとそれはすぐ見えたが、近くまで行って下から見上げると、その先頭は遥か彼方の空の中だった（写真1）。聖書のバベルの塔の話が、なぜか一瞬浮かんで、これ以上地球上に言語が増えたら益々意思疎通に苦慮するな、といらぬ心配をした。

スエズ運河とシナイ半島上空を横切り、飛行機は夕刻カイロ空港に到着した。15US\$のビザを取り、（なんとなく旧共産圏の様な雰囲気戸惑いながら）入国。迎えの車に乗り、途中から凸凹道（舗装はし



写真1



写真2



写真3

てあるが、なぜか車は揺れた)を走りホテルへ。メナ・ハウス・オベロイと言う古いホテルだが、庭先の椰子の木の間に、ギザのピラミッドの勇姿がライトアップされていた。初めてのピラミッドに興奮する心を落ち着かせながらシャッターを切る(写真2)。ふと見ると、ピラミッドの上に、美しい月が輝いていた。砂漠の月では無かったが、私にとっては充分美しい月であった(写真3)。

何処の国へ行ってもそうだが、屈託のない子供達に囲まれた時が一番嬉しい。ここエジプトでは特に機会に恵まれた。ハトシェプスト女王葬祭殿からの帰路、照り返しの強い中、輸送車に乗り合わせて来た小学生の一群に取り囲まれてしまった。どうやら修学旅行か春の遠足らしい。嬉々として輝く瞳。しばらく相手をしてやっていたら、隣の女生徒の一人が、喉を震わせ甲高いララララ……という雄叫びで歓迎してくれた(写真4)。

エジプトはナイルの賜物とよく言われるが、なるほど空から見ると、ナイル河の兩岸だけに人々の生活空間が在り、その周囲は不毛の地に思えた。カイロ市内を流れるナイルの水は当然それ程美しくなかったが、上流のアスワン近くでは澄んでおり、直接水を飲む人もいた(写真5。但し、疫学的には住



写真4



写真5



写真6

血吸虫等に要注意!)

カイロ、アブシンベル、アスワンと来て、次の訪問地はルクソール。すぐ近くだからという言葉信じて、車にしたのは失敗だった。飛行機なら30分の所を、何と4時間半も掛かった。決して快適とは言えない道を、夕暮れ時になっても、車はライトを点けずに走る。対向車らしき影を認めた時だけフラッシュの様に点灯する。ひやひや物であった。そうしてやっと到着したルクソールの夕日にほっとした(写真6。ウィンター・パレス・ホテルからの眺め)。

その夜、ファラオからの贈り物があった。かつてテーベと呼ばれたその古都には、エジプト最大の神殿がある。腹ごしらえをしてから、ルクソール神殿のライトアップショーに出掛けた。始めは巨大円柱の遺蹟の中の幻想的イルミネーション、最終的に池を挟んだ屋外劇場へ。そう、屋外劇場に座った時、私の眼は、神殿から見上げた夜空に釘付けになった。真にシェルタリング・スカイその物だった。私は仰臥して、ただ降るような星々と、透き通る様に光る月に見とれていた(写真7。ルクソール神殿の月)。

## 後書

昨年3月、カイロの飛行場に降り立った時、「ここは共産圏かな?」と感じた自分の勘はあながち間違いでは無かった。この2月(2011年)にムバラク大統領は退陣せざるを得なくなった。あの不思議な雰囲気は共産圏の匂いでは無く、独裁国家の匂いだったのだ。両者にはどこか似た匂いがする。また去年訪れたスリランカも少し違和感を覚えたが、そこに居る友人は大丈夫だろうか。いやもっとはっきりしている国が日本の近くにもあるのだが、そこに

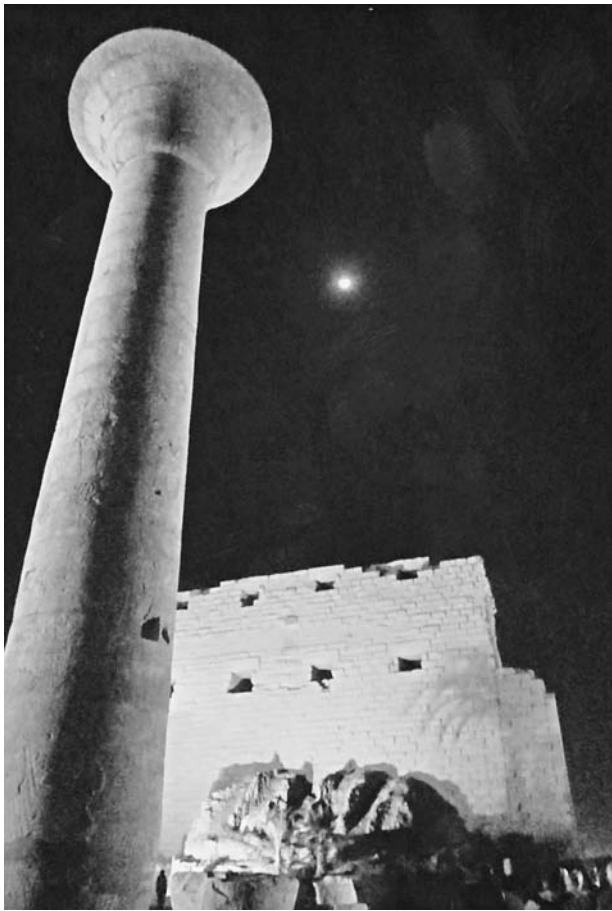


写真7

住む友人たちは……。

つい最近読んだ、マリオ・バルガス＝リョサ『チボの狂宴』（私の敬愛する大城戸宗男名誉教授から



写真8

も「読みましたか？」とファックスを頂いていたから、独裁者の酷さを知った。本の作者からの伝言として、独裁と恐怖政治、貧困は大抵セットになって人々を苦しめる。そして、独裁者が駆逐されても、マイナス要因として、次世代にまで影響をおよぼすと。人は権力を手に入ると得てして残虐になり、自分と意見を異にする者を敵視し排除しがちと。詩人金子みすゞさんの「みんな違ってみんないい。」の寛容さが心に沁みる。

信じがたい事に、本書の独裁者に支配されていたカリブの国に、当時10歳の私は居た。なにも知らずに無邪気に嬉々として、あのエジプトの子供達のように……彼らの未来に幸多き事を祈る。(写真8. エジプトの女子高生と筆者)

## 片足棺桶、その2 ——いよいよ両足へ——



内山光明●内山皮フ科（横浜市磯子区）

前回は自分の病気について細かく？経過を書いた。やや専門的なので悪性腫瘍屋さんでないと難解なところもあったらしい。あれから1年、不思議に命永らえて今年も桜を見ながらワープロに向かって

いる。此の文の皆様目に触れるのは7月であるからその頃の内山の様子は全く分からない。

昨年3月、最後の入院（軽快を前提として）かなと思って、3月、4月、5月と入院し化学療法を受

けた。2009年12月の内視鏡と生検で完全寛解に近い状態であった。しかし主治医、食道がん専門家は首を傾げていた。白血病で地固め療法といって無駄かも知れないがもう一押しという化学療法がある。それですかと聞いたら、ウーンという返事だった。食道がんに地固め療法など無い、追加療法だと暗に論じているのである。

ともかく2010年3月から1クール、3回、タキソールとシスプラチンの化学療法を受けた。

終わって、体のだるいこと、歩くのがやっとである。5月末、副作用のだるさを除いては自覚症状は全くなく、快調、各種会合に顔を出し食道がん恐るるに足らずなんて吹いていた。

自分では治っているつもりでいた。しかしクラスメートの専門家から一応は再発を覚悟しろとはいわれていた。つまり、化学療法、放射線療法には限界があり、異物として認識されにくい、あるいは耐性株といった細胞がはびこることがあるということである。

2010年6月初め、内視鏡検査。僅かにでこぼこがあり、生検で扁平上皮癌陽性。すなわち再発である。一寸早いんじゃない?などと思っても仕方ない。再発というよりは治っていなかったというべきであろう。

6月中旬から内服による化学療法が始まった。5-FUの改良剤、TS-1である。今まで最高の治療を受けたわけであるから同じ治療は意味がない。これは特に放射線治療に比べると効かなくなった放射線をもう一度当てると今度は正常組織にダメージを与え悲惨な結果になる。過去の経験から同じ放射線は二度とやらないのが原則である。重粒子線というのがあるが大きいのは千葉の稲毛市にある放射性医学研究所のHIMACが有名である。電気代がかかるので有名である。初期のころメラノーマによく使ったが、有効ではあるが完全治癒は無理であった。4、5年先に神奈川県立がんセンターにも小型のものが出来るという。小型のものは神戸と前橋にもある。PRの講演会があったので早速聴講した。食道がんは現在のところ適応外。以前にも放射線の専門家に聞いたら一笑に付された。内山の場合がんの位置が悪い。心臓と大動脈にくっついていて。治療中穿孔したら即お陀仏である。楽でよいかも知れないけどね。そんなわけで、なかなか難し

い。5-FUは内服であるが効果がマイルドである。TS-1は初めて、内服で有効な抗がん剤として有名になった。副作用もきつい。先ず造血機能、2wに一度のチェック。消化器症状、怖いのは中枢神経系の症状である。飲むとめまい、ふらつきが出て、甚だしいときは、老人など転倒する。内山も老人である。要注意。2週間はどうか飲んだ。まだ副作用無し。めまいを感じた。休むと治る。単なる疲れかなと思っていた。2010年7月1日、心臓の治療で神奈川県立循環器呼吸器病センターを受診。新杉田でJRをおりタクシー乗り場へ。タクシードライバーに「お客さんどこが悪いのですか。足がふらついてますよ」と注意された。病院に着き、手続きが済んで検査に向かったら後ろから受付の相談看護師が追いかけてきた。車椅子をおしている。すぐ乗って下さいという。自分ではまっすぐ歩いているつもりだがめっちゃくちゃなふらつきらしい。忠告に従い車椅子で行動した。浦舟の消化器病センター主治医に電話し、状況を報告、すぐに内服の中止を指示された。午後は福浦眼科受診。夜のスライド供覧会は状況を話し欠席とした。

7月4日、神奈川県皮膚科医会、関内新井ホール。出席して親しい友人には再発のことを伝えた。自覚症状はなく、アルコールを除いて飲み食いに不自由はない。しかし歩くとふらつく。帰りのタクシーまで歩けない。担当の製薬会社の人の助けを借りどうにかタクシーに乗せてもらい帰宅した。次回の診察から、化学療法剤が古い5-FU内服に変わった。入院してまでTS-1を飲むべきであろうか。そこまではいわれなかった。

7月から非特異的免疫療法をコツコツ始めてみたがあまり効果はないようである。ご承知のごとく2010年の夏は異常に暑かった。しかし化学療法剤の副作用で汗を掻かず、暑さは感じない。だるさは相当のものだった。これは過去3回の化学療法の副作用というべきであろう。自分の診療はどうにかこなすことが出来た。

2010年9月初め、内視鏡。今度は素人目にもはっきりした再発がわかる。潰瘍化している。5-FUは余り効いていないなどいいながら続けるしかない。それでも秋になって身体はすこし楽になってきた。各種会合は成る可く顔を出した。飲食も不自由なかった。アルコールは勿論2008年12月初め以来、

一滴も吞んでいない。潰瘍のある現在吞んだら命取りである。幸い、依存症では無かったので、口では「呑みてー」というがそれほど呑みたくはない。

ここでアルコールと食道がんの関係について少し触れる。タバコとアルコール、塩が誘発因子であるのは一般論である。食道がんに関しては、いわゆる強いお酒、ウイスキーなどがいけない。特にお酒に弱い人が強いアルコールを呑むのが一番いけない。このような習慣の人の食道がん発生率は普通の人の40倍であるという。依存症になりやすい人は分解酵素が沢山あるのでがんにはなりにくい。その代わりに依存症になる。弱いくせに強がって呑む人が一番いけない。ズバリ、原因はアルコールである。いや呑みました。ウイスキー750～900ml、1本が4日で空になる。ロックカストレート。モルトウイスキーは冷蔵庫で瓶ごと冷やしストレート。焼酎はロックで2、3合。これでは食道も肝臓もたまらない。γ-GTPが80から正常に戻るのに2年かかりました。インドシアニングリーンという色素排泄試験で初めは20%。境界ですが異常です。このために手術は適応無し。やめて3ヶ月で17%と下がりました。肝硬変はどうかまだなっていないだろうということ。肝臓の治療はしないで経過観察となりました。

アルコールに関しては後輩のやはりがん専門のT医大皮膚科N教授からいわれた言葉を紹介する。内山の食道がんの原因はアルコールである。「長年見ていると、内山先生は、呑めもしないくせに真っ赤な顔して強い酒をがぶがぶ呑んだからいけないんですよ」。これには応えました。妻に伝えたら、N教授に拍手、よくぞいってくれました。妻もいっていましたが内山がいうことを聞かなかったということです。

手術についてですが、一般的に食道がんの手術は年齢と場所、進行度により適応が限られてきているそうです。75才過ぎると先ずやらないようです。内山のように初めは適応なし。放射線、化学療法で叩いた後は原則としてやらない。術後6ヶ月入院、QOL（生活の快適度）は良くない。昔はやったこともあるようで中にはよい結果の人もいたそうです。心臓大動脈と癒着しているかも知れない場所では適応はないと考えるべきでしょう。

その後の経過。

2010年12月内視鏡。腫瘍拡大。まだステントという管を入れるほどではない。ステントはあくまで姑息の手段であるということです。そのまま経過観察。5-FU続行。12月5日、神奈川県皮膚科医会出席。そろそろ両足かという話を少しした。

嘔声出現。元々嘔声であるがひどくなった。反回神経のリンパ節転移か。

12月12日PETスキャン、全身のがん細胞の検索です。原発巣の拡大はあるが転移無し。12月の忘年会はどうか出席。中華料理が多かった。チリソースはダメですね。

2011年、正月のおせち料理は食べることが出来ました。雑煮もこわごわ食べられました。新年会は出席。すこしは食べられるし、だるくはない。

2月に入って急に食事が入らなくなってきた。嘔声も時に悪化。食道の刺激症状か。胃が悪いのか。内視鏡では胃炎のみ。逆流性食道炎か。

当然栄養失調、るいそう、時に脱水症状などがある。水分をとっても吐いてしまうことがある。余り書きたくないが78Kgの巨体が56Kgとなってしまった。かったるさの原因は寒さもある。脊柱管狭窄症でしびれがとれない。冬は時々自動車を動かさないとバッテリーが上がってしまうのでいじろうとしたらブレーキがよく踏めない。アクセルも同じ。こりゃアブねえやということはいよいよ廃車かなと思っている。

そのような中で、診療を5時で終了にして患者を減らしているが基本的なだるさはない。歩くのがかったるいのは狭窄症である。診療室に座ると何となくシャンとする。文句をいわれるのは何故5時で閉めるようにしたのかということくらいである。一般的には高齢のためと弁解し、親しい患者さんには病気のことを少し漏らしている。

患者さんの数が減った分だけ、診療はより丁寧に。インフォームドコンセント（患者さんに納得のいく説明）を心がけている。

2011年3月11日、15時ころ。ドッシンガラガラである。東日本大震災。

交通麻痺、停電で生活がかなり乱れた。夜の各種会合は殆ど中止。地元医師会、横浜市医師会の代議員会は強行された。やらないと4月からの業務が出来ないらしい。交通麻痺は応えましたね。

あれやこれやで片足棺桶の半病人がいよいよ両足

棺桶の本病人になった感じがする。それでもまだ参らない。人生引き際が大切であることは良く解っている。

妻を筆頭に多くの人が内山の命を支えてくれている。一番大変なのは周囲の家族である。感謝の言葉もないという表現が適切であろう。本当に、東西南北からの応援には感謝の気持ちで一杯である。中には、「療養に専念し…」などの見舞いもいただく。でも一寸待って下さい。療養に専念して治るの？無理でしょう。限界は自分では理解している積もりであるが、急変ということもある。繰り返しになるが「頑張ってください」とはいわないで下さい。頑張りません。がんと闘いません。今はもうそんな状態ではないのである。自然体、このまま進みます。完全に両足になる前に何時幕を引くかが重要な問題でしょう。

この文が皆様の目に触れる7月にはどうなっているのやら……人生の終わりを迎えるとき、現在の心境は複雑です。まあやりたいことをやってきた。余り後悔はないであろうという気持ちと、何もできなかったじゃないか。まだまだやることは一杯あるんだぜ。もっともっとやってから人生の幕を引けよという気持ちが錯綜しています。

まあ、それぞれの人生、やるべきこと、やりたいことはある程度やった。

これでいいのであろう。後はなるようになるさ。心配しても仕方ない。

残りの人生、世のため、人、家族、自分のためすこしでも有意義に過ごしていこう。勿論、頑張らずに、無理しないで、自然体でね。

以上 以下次号???

## おどろきモモの木クリニック・パートXVI



宮本秀明●宮本皮フ科（横浜市磯子区）

### 1. ゲッ、ゲッ、

ゲゲゲのゲー、朝は早よからクリニック。悲しいな、悲しいなー。

開業医にはボーナスも、退職金も何んにも無い。

ゲッ、ゲッ、ゲゲゲのゲー、月末は遅くまでレセプトだ。

悲しいな、悲しいなー。開業医だが別荘も、クルーザーも愛人も無い。

ゲッ、ゲッ、ゲゲゲのゲー、そろそろ閉院だ、下下の下～。

駅のそばなら繁盛するだろう…と考えて商店街の真ん中、JR洋光台駅から徒歩2分の地に6年前に開業したが、甘かった！ 商店街のテナントは年年歳歳同じからず、ここも閉店あちらも閉店で、あつ

という間にシャッター街と化した。うちの隣のテナント（弁当屋）も廃業となり、1年以上閉まりっぱなしの隣のシャッターをうちのと勘違いし「あのクリニックも潰れたんですかい？」などと近所の魚屋や八百屋や米屋に聞く人もちらほら出てきた。尤も、閑散とした待合室を見て「今日は休診じゃないですよね？」と聞く人もいたので、潰れたと思ひ込む人がいるのも無理もない。

患者を増やそうと思って広告費に金をかけた時期もあったが、全て空振りだった。こうなりゃ、経費節減しかない。

### 2. 経費節減小作戦

診療所のFax番号は各種の名簿には載せないようにしてるのに、どうでもいいようなコマーシャル

Faxばかり矢鱈来て、その度にプリンターのインクが減る。コマーシャルばかりでなく医師会からも沢山来る。他科に関するものが多いとはいうものの、大事な物も結構あるのでFaxを止めるわけにはいかぬ。プリント用紙は、勝手に送りつけて来るダイレクトメールの裏紙を利用しているので金はかからぬが、インク（トナー）代が馬鹿にならぬ。インターネットで調べたら、Faxの機械すらなくても月1千円くらいでFaxの受信・送信が可能なインターネットサービスがあった。これを初めから利用していれば紙やインクだけでなく毎月のNTTのFax回線料金もFax機さえも要らなかったのだが、いまさら換えられぬ。

しかたなく医師会に頼んでFaxの内容をインターネットでパソコンに送ってもらおうようにした。するとFaxだと単色だったグラフなどがパソコン画面で見るとカラーで見易いばかりでなく、インク消費もかなり減った。嬉しくなって「こうするとインク代が毎月×千円節約できませ！」と某美人？女医に伝えたところ「そういうケチな話には興味ありません」とつれなく袖にされてしまったよん。

### 3. 看板に偽りありか？！

(イ)。昔の不動産屋の宣伝で「××駅から歩いて十分」…なんてのに釣られて行ってみると30分歩いても現地に着かぬ。不審に思って尋ねてみると「駅から充分かかります」という回答。以後は法律が改正されて徒歩1分は80mと決められた。

(ロ)。日本も長寿国になり、介護だの老人施設だのの広告も目立つ。「24時間医師常駐老人ホーム」というフレーズに釣られて見学に行ってみると、医師はおろか看護師の姿すらない。尋ねてみると「入居している方の1人が元医師だったもので…」というお答え。元医師といっても医師免許を返上してなければ確かに「医師常駐」には違いない。「診察可」と書いてある訳ではないしー。

(ハ)。多部未華子主演のTVドラマ「デカワンコ」というタイトルをみて「便秘が治った人のドラマ」かと、一瞬目が点になった。「ワ」が「ウ」にみえたからである。

ドラッグストアの店先の健康食品の宣伝ポスター「ウコン」も見るとどっきりする。今はすっかり下火になったが、昔「飲尿健康法」なるものがあった

たので「ウコン粉末、ウコン粒、ウコン茶」などの文字が並んでいると、また別の排泄物を飲むのかと困惑してしまう。実はウコンはショウガ科の多年草で、漢字ではなんと4通りもあり「鬱金、宇金、郁金、玉金」と書くそうだ。最後の漢字などはまた別の混乱をきたしそうである。

(ニ)。米国アニメ「アバター」は3D画像で絵が浮き出るので話題となったが、特殊なメガネが必要だった。ところがそんなメガネをかけなくても立体的に見える「裸眼3Dテレビ」の文字を見て内心小躍りした。一瞬「眼」が「体」に見えたのである。どうも自分の期待する方向に勘違いするようだ。

### 4. 所変われば…

水木しげるは、戦時中左腕を失ったものの九死に一生を得てニューギニアから帰還した。しかしニューギニアへの思いはなかなか断ち切れず、かの地への一家移住を何度か提案し家族を困惑させたそうだ。

水木しげるが「南の島へ行くぞ」と言えば「ニューギニアに移住すること」。

大阪のやくざが「ミナミのシマへ行くぞ」と言えば、「ミナミ（大阪・難波）のシマ（縄張り）に行くこと」。

### 5. シューカツ！2

M氏のS令嬢は次々に会社を受けてもなかなかうまくいかないで大学の就職相談室に行ったところ「ヘアスタイルをこう変えて」「面接時の姿勢はこう」などと細かくアドバイスされた後で「大体合格なんですがね、もうちょっと明るい感じにしたらさらにいいですね」と言われたそうだ。それなら無理に直さず、フィットする職場がないかとM氏が頭を捻ったところ良いアイデアが浮かんだ。「葬儀屋を受けろ。『おくりびと』だ」とS令嬢に伝えたところ早速受けてきたが「応募者には明るいきゃびきゃびしたギャル子がいっぱいいたよ」とのことだった。冠婚葬祭という言葉があるように、どうも葬儀屋と結婚式場とを兼業している企業も多いようである。その葬儀屋さえもギャル子に負けたのか落ちてがっかりしているのだから「キャバ嬢はどうだ。お父さんが同伴出勤して売り上げ加算してあげるから」ともM氏は言ってみたものの、キャバ嬢も供

給過剰気味の様である。「じゃあ耳かき店員はどうだい。ギャラもいいみたいだし、キャバ嬢より楽そうだよー」ともう一捻りしたものの、すぐ横のTVから「耳かき店員殺害で死刑判決」と、おっかないニュースが流れて折角のアイデアもボツとなった。

ふーむ、こうなりゃ、婚活だ！

## 6. 小説なんてダサい？

村上春樹の『1Q84』があっという間に200万部売れたからって驚くにはあたらない。漫画の『20世紀少年』は2,500万部、『バガボンド』は1億4,000万部、『ドラゴンボール』は1億5,000万部、『クレヨンしんちゃん』は5,000万部である。1冊の値段が少し違うといっても差は歴然である。小生も前出の4つの漫画のうち3つは読んだが、村上春樹は『1Q84』どころか『ノルウェイの森』『海辺のカフカ』『ねじまき鳥クロニクル』のいずれも1行すら目を通していない。

フランス語圏の某国に旅した時、現地の人には『ONE PIECE』『NARUTO』『ドラゴンボール』だけでなく「マンガ」という言葉さえも知っていた。マンガ恐るべし。

## 7. 核兵器なんて要らない

…というからノー天気な平和主義者の発言かと思ったらそうではなかった。

米国オバマ大統領は2009年の4月にプラハで「米国は核兵器のない世界をめざす」という演説をしてノーベル平和賞をもらった。このニュースを耳にして、いくら政治家が2枚舌とはいふものの「核兵器

のない世界を」などと正反対の事を堂々と言ってノーベル賞ではマズインじゃなからうか、と当惑した。しかし実際は「核よりも更に使い易く効果的な兵器が出来たので核兵器なんて以前ほどは重要ではない」というのが真相らしい。

某雑誌で「核を無意味にする超下級ミサイル」という記事を見た。米国が1950年代に開発した初期のICBM（大陸間弾道ミサイル）は射程1万4,000キロで、半数必中半径は3.7km、即ちミサイルの半分は半径3.7kmの円の外に着弾してしまう。しかし技術の進歩により、現在のICBMは1万キロ飛んで（地球1周は4万キロ）半数必中半径は110mであるし、射程がもう少し短い（射程千数百キロの）巡航ミサイルなら半数必中半径は10mであり所謂ピンポイント攻撃ができる。攻める側も都市全体を破壊する必要はなく、指導者の住居や執務室だけ狙えば目的は達成される。

自国の領土から発射するICBMだけでなく、射程千数百キロの巡航ミサイルを巡洋艦や潜水艦に搭載すれば世界中どこでも攻撃可能なんだそうである。

こう考えると怖いねー。でも東日本大震災のエネルギーには遠く及ばない。…と思いつつ筆を進めていたら（震災の2週間後）また家がぐらぐら揺れてきた。余震で揺れる度に「これでお終いか」と心も揺れる。自宅も診療所も海岸から3 km以上離れた高台なので津波の心配はない。しかし築20年以上経った木造の自宅は崖っぶちにあるので（小生の人生も崖っぶち！）、家の下敷きか土砂崩れで埋まってしまう、これが絶筆になるかも、ううっ。涙、涙。